

ステークホルダーへの情報発信

ステークホルダーへの情報発信は、適切な情報開示の観点からも重要なものと考えています。当社では、経営方針や会社の業績、新技術の開発などを株主・投資家・マスコミなどに対して、さまざまなツールを通して開示しています。

IR説明会の開催

機関投資家・アナリスト・マスコミを対象とした、決算説明会、および現場見学会を開催しています。

2008年度は、本決算、第2四半期決算の説明会を開催したほか、横浜港南本牧国際コンテナターミナル建設の現場見学会を開催しました。

社長によるプレゼンテーションをはじめ、質疑・応答など活発な意見交換が行なわれ、当社の事業戦略を理解していただく重要な場となっています。



鈴木社長によるプレゼンテーション



横浜港南本牧ふ頭 銅板セル製作現場にて

ホームページを通じた情報発信

ホームページは、ステークホルダーに向けた、迅速な情報開示手段のひとつです。

当社では、新着情報として、東京証券取引所への適時開示情報のほか、マスコミに発表した新技術の開発、その他、ステークホルダーにお知らせすべやかに開示しています。

また、保有技術のページにおいては、当社が保有する技術・工法を掲載し、お問い合わせフォームを設けるなど、顧客の事業支援のツールとしても活用しています。

今後も情報開示の重要なツールとして、継続的な改善を図っていきます。

株主への情報発信

株主の皆さまには、毎年、6月末に開催している株主総会招集通知の添付書類「事業報告」に該当事業年度の業績を記載しているほか、株主総会開催後、ダイジェスト版として「報告書」を送付しています。

また、ホームページの株主・投資家情報において、決算短信、有価証券報告書を掲載するなど、迅速な情報開示に努めています。

社員への情報発信

社報「TOA」の配布、イントラネット（社内ネットワーク）などを通じて、社内コミュニケーションを図っています。

また、本社内各部、支店が積極的に情報発信ツールとしてイントラネットを活用し、情報の共有化を進めています。

MY OPINION — 従業員の声 —

就労環境の変革に向けて

東亜建設工業 労働組合 中央執行委員長 星野 康幸

たとえ小さな改善であっても、従来からの習慣を改めることは非常に難しい。

仕事人間が美徳とされた日本の社会においては、仕事のために個人の時間を割くのは当たり前のこととされてきたし、建設業に従事する我々社員も当然のように受け入れてきた。

仕事の質を落とさずに、労働時間を削減することは、非常に難しい問題であり、現在に至るまで解決されていない。しかし、「不払い残業」、「名ばかり管理職」という状態が社会的にも問題視されるなか、当社にあっては、経営層が率先してこの問題に取り組んでおり、徐々にではあるが従業員の意識も変わりつつあるように思う。

CSRとしての問題だけではなく、「社員あっての会社」という観点からも、労働組合として就労環境、特に時短推進の問題には取り組んでいきたい。

